

第1回 オリエンテーション

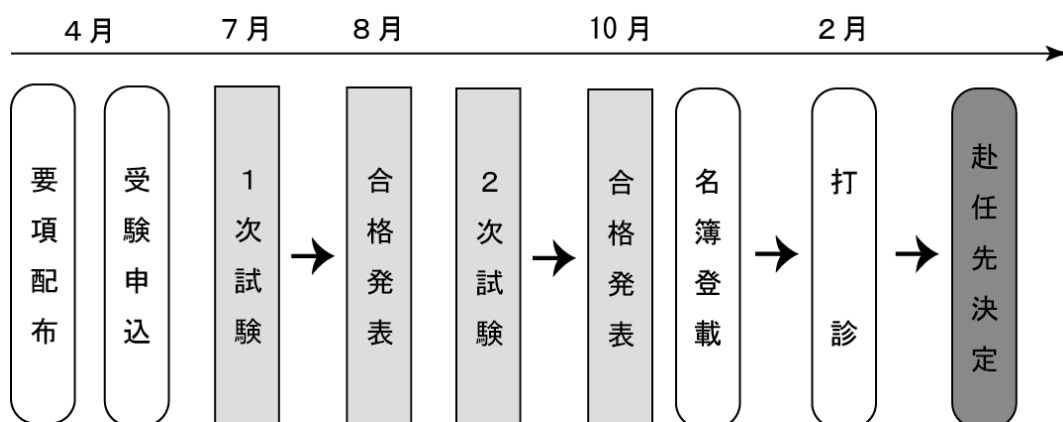
0. 理想の教師像とは

【中央教育審議会 平成24年 求められる教師像】

- (i) 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)
- (ii) 専門職としての高度な知識・技能・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)・新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力
- (iii) 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

メモ

1. 教師になるまでの道のりと対策



【選考から正式採用まで】

① 要項の取得

7月以降に実施される教員採用試験の詳細が発表される。

② 受験申込

郵送やインターネットによる受験申込を行う。

採用試験は、都道府県・政令市単位で実施され、併願が可能。

実施時期が限定されるので、最大で4程度の自治体しか受験できない。

(平均的受験自治体：1～2)

③ 1次試験

主に筆記試験が実施される。

筆記試験：一般教養試験 専門教養試験 論作文試験など

一部の自治体では、集団面接などの人物試験が実施される。

④ 2次試験

主に人物試験が実施される。

人物試験：個人面接 集団面接（話し合い活動含む） 模擬授業 場面指導ほか

⑤ 合格者発表と名簿登載

選考により合格者が発表される。

合格者は候補者名簿に登載され、打診を受ける機会を得る。

⑥ 赴任先打診

選考結果や志望条件などから赴任先を打診される。(設置者である教育委員会より)

必要に応じ、面談などを実施する場合もある。

条件等により、打診が複数の自治体から来ることもある。

面談等の結果によっては、赴任先が決定しないこともある。

⑦ 条件付採用

1 年間は条件付採用となり、良好な成績をおさめた場合、正式採用となる。

→全員が必ず、正式採用となるわけではない。

メ モ

【参考資料 中央教育審議会 新しい教員免許について】

(「一般免許状(仮称)」、「基礎免許状(仮称)」の創設)

- 探究力、学び続ける力、教科や教職に関する高度な専門的知識、新たな学びを展開できる実践的指導力、コミュニケーション力等を保証する、標準的な免許状である「一般免許状(仮称)」を創設する。また、当面は、教職への使命感と教育的愛情、教科に関する専門的な知識・技能、教職に関する基礎的な知識・技能を保証する「基礎免許状(仮称)」も併せて創設する。
- 「一般免許状(仮称)」は学部4年に加え、1年から2年程度の修士レベルの課程での学修を標準とし、「基礎免許状(仮称)」は、学士課程修了レベルとする。

(「専門免許状(仮称)」の創設)

- 特定分野に関し、実践の積み重ねによる更なる探究により、高い専門性を身に付けたことを証明する「専門免許状(仮称)」を創設する(分野は、学校経営、生徒指導、進路指導、教科指導(教科ごと)、特別支援教育、外国人児童生徒教育、情報教育等)。
- 多様な人材の登用を促進する。
- 教員免許更新制は、詳細な制度設計の際に更に検討を行うことが必要である。
- 今後、詳細な制度設計を行う際には、スクラップ・アンド・ビルドの観点に立ち、検討する。また、国公私を設置形態ごとに研修制度等が異なることを踏まえた取組の在り方や必要な支援措置についても考慮する必要がある。

2. 「大学3年」にやっておきたいこと

【東京都教育委員会 小学校教員 学生ガイドブック】

～大学の4年間で皆さんは、授業やサークル活動（部活動）だけではなく、小学校や中学校でのボランティア活動、インターンシップといった社会体験など様々な場面を通して、多くのことを学ぶ機会をもつことができます。その中には、教師を目指す人間として身に付けるべき資質・能力を高める場面もたくさんあります。

ここでは、大学を卒業して間もない若手の教師たちからの、自身の経験に基づくアドバイスを中心に、学生生活の様々な場面を通して身に付けてほしい力を取り上げます。

□サークル活動から得たもの

- 多様な仲間が集まる組織の中で、目標を定め、困難を乗り越えながら活動することで、多くの得るものがありました。目標が達成されれば喜びがあり、更なる高い目標を目指しますが、たとえ達成されなくてもそこで感じる悔しさや挫折もとても貴重な経験となっています。
- 合宿の企画や宿泊先との折衝、他団体との交渉等、様々な調整事項があり、その対象者も必ずしも同世代ではないので、実践的に折衝力を高めることができました。
- 1年生で雑務、2年生で後輩の指導、3年生で学年間の調整役、4年生は最終責任者と、学年進行に応じて果たすべき役割は異なり、これらのことを経験できたことは、社会でどの立場になっても役立ちます。
- 何か一つ「これはできる。」「負けない。」という特技をもてると、人間関係が広がります。
- 先輩に対する挨拶、言葉遣いや礼儀など、人と関わりをもつ上で欠かせないスキルを身に付けることができました。

□社会体験から得たもの

- 言われたことだけをやるのではなく、自ら行動しようとする積極性や、相手の立場や事情を察して冷静に行動しようとする客観性が身に付きます。
- アルバイトでサービス業やものづくりなどを経験すると、浅く広く知識が身に付き、子供たちに話す内容が増えました。また、報酬を受けることで、働くことの価値や仕事に対する責任を感じるようになりました。

□コミュニケーション能力

- サークル活動、ボランティアや社会体験等の多くは、人との関わりの中で行われるものです。そこでこれらの経験を通して、多くの人が「コミュニケーション能力」を身に付けることがで

きているようです。新しい人との出会いの中で多様な価値観に触れ、相互理解を深めていくような体験はとても有意義です。

- 例えばサークル活動は、基本的には多様な考えをもつ人たちの集まりですが、その上で統一の目標を定め、その達成を目指して力を合わせるところが、学校と共通している面だといえます。

□統率力

- 「統率力」は、東京都教育委員会が示す、授業力の六つの構成要素としても取り上げられているように、教師として身に付けるべき大切な力です。この「統率力」もコミュニケーション能力と同じように、人との関わりの中で身に付くものといえます。
- 「コミュニケーション能力」と違って「統率力」には「まとめる」「率いる」といった、リーダーシップを発揮するという要素があります。学級担任は子供たちにとっては、大きな意味でリーダーといえますから、子供の信頼を得るためには「統率力」をもった教師でなければなりません。
- サークル活動やボランティアなどを通して人との関わりの中で、立てた目標の達成に向けてよりよい活動にしていこうとする振る舞いや発言、行動の繰り返し、その過程そのものが、「統率力」の源になります。

□忍耐力

- 苦しさや辛さに耐える力を「忍耐力」といいますが、サークル活動やボランティア活動等の場面に当てはめると、まずは続けることが大事なことです。多様なサークル活動を経験したり、様々なボランティア活動をしたりすることも貴重な経験といえますが、「忍耐力」はそれらの「持続」によって生み出されるものです。
- 苦しさや辛さに耐えるためには、目標設定が重要です。例えば、「スポーツ等の大会で優勝する。」という目標達成のために続ける練習は、大変過酷なものですが、確固とした目標が自分の行動を支えることになります。サークル活動を通してできる貴重な経験です。

□組織貢献力

- 「組織貢献力」は、東京都教育委員会が「教員に求められる基本的な力」として示した力のうちの一つです。サークル活動や学校ボランティア、社会体験などに進んで参加して、その組織の一員として貢献することに取り組んでみましょう。
- 組織に貢献しようとする気持ちは、組織の一員として「自分が役に立った。」というような成功

体験が基になって高まります。自分の努力が、組織に貢献していることを実感できたときに、その後の行動の原動力になります。

メ モ